七会小学校

学力向上拠点形成事業 研究発表会を終えて

自ら考え
豊かに感じ
想像できる
児童の育成

■確かな学力の育成

平成十九年十一月九日に、「学力向上拠点形成事業」の研究発表会を開催しました。この取り組みは平成十七年度より文部科学省の委嘱により茨城県教育委員会から指定を受け、三年間継続して研究に取り組んできたものです。

■生き生き学ぶ子どもたち

国語科を中心に研究を重ねてきた結果、児童が、文章の内容をよく考えて読むことに楽しみを覚え、一つ一つの言葉に注意して読むことができる児童や、進んで想像しながら学習することができる児童が増えてきました。また、「読むこと」に自信をもった児童は、作文など「書く」学習にも興味を持ち進んで取り組むようになりました。

国語の授業で自分たちの考えを図にまとめる児童

■自然に文字に親しむ学校環境

一階のオープンスペースに国語コーナーが設置されています。「漢字で遊ぼうコーナー」や「画数カルタコーナー」など、ゲームを通して文字に親しむことができます。また、「俳句紹介コーナー」や「絵手紙コーナー」など、自分の作品を多くの人に見てもらい文字を書く喜びや文を作る楽しさが味わえるようにしています。

詠んだ俳句は、「国語コーナー」に掲示される

地域に広がる学習の場

国語で学習した音読や音楽で取り組んだ合唱を、保護者や祖父母を招いて発表したり、老人ホームを訪問して発表したりしています。

自分たちが学習したことを人々に聴いてもらい、認めてもらうことで、児童はより一層学習への意欲が高まりました。

国語コーナー

友だちと一緒に
毎日気軽に
漢字を勉強！

ふるさとの年中行事

若餅

繭に見立てた餅を木にならせ豊作を祈願

1月14日

若餅は、繭玉・ならせ餅・成木餅・おかざり・はなもちなども呼ばれ、米や綿の豊作を祈るため「米の花」「綿餅」と呼ぶところもあります。行事としては全国的にみられます。

水戸市では、餅を樫や楢の木につけ、神棚や氏神・台所などに飾りますが、多くはメーダマと呼び、竈の神に供えるとされています。また五歳くらいの子供のいる家庭には、木につけたままのメーダマを祝いとして贈る風習もあります。

かすみがうら市上佐谷地区では、楢の木を高さ約二メートルに切って、臼に縄で結びつけ、朝ついた餅を五センチメートルくらいに丸めて、百個余りを枝に刺してならせます。臼の上には、粉ひき用の石臼を2個重ねて飾る場合もあり、柱や俵に楢の木を飾る家もありました。ならした餅は、十九日か二十日の朝にはずして雑煮にします。また、この日に「ぬるでのざく又」を2本作り、十五日の小豆粥を頭部にぬり、万才より受けたお札をはさんで保存し、苗代田に害虫除けとして立てる風習もあります。

新年を迎え無病息災・五穀豊穣を願うものですが、現在ではあまりみられなくなってしまった行事の一つです。

5㎝前後の餅を木にならせた“ならせ餅”
（平成18年度郷土資料館特別展示）

文芸ひろば

俳句

ほとんどが昭和の歌や年忘れ　榊原清志（稲吉）
天を突く枯木の枝に力あり　加藤貞江（稲吉）
深海に何を見て来し金目鯛　江崎慶子（稲吉東）
一山をゆるがすひびき冬の鐘　成島利男（下稲吉）
つなぐ手の小さきぬくもり初詣　石塚文子（牛渡下郷）
初暦朱色目にしむ厳島　折本アイ子（鹿ノ山）
サーファーの初日切り込む波頭　萩原とし子（南根本）
表紙絵を選んで掛ける初暦　松沢よ志の（深谷二）
老いの身へ下さる餅の有難き　塚田甲子郎（下稲吉）

短歌

工事用の豆ランプ赤く点滅し稲の刈田に土盛られたり　田中好子（下稲吉）
如何にあれ出でし言葉は歩みけり心との差に思いとまどう　中島良平（稲吉東）
庭歩きを好む幼の赤き靴しかと土踏み歩みの速し　中根美子（下土田）
猛暑時に乾きし畑に種蒔きし豆の収穫重ね着をせり　橋本とし（粟田）
便り来て一行返事を書いたけど明日にしようと一ヶ月過ぎる　名倉靚子（下大堤）
全耕地開墾なりしを秋祭のならわしとして今に続くも　佐藤千代（宍倉）
返信の無き便りなれど弟に病むわびしさを埋むる絵はがき　小室貞江（西成井）
外来と嫌われ咲けりアワダチ草せつなきまでに彩を尽くして　前嶋武（上土田）
山茶花の紅の花咲き満ちて寒に入る日の朝光澄めり　川原場好子（上佐谷）
お互に違いを認め距離を置くむつみて今日は同峰の庭に　古畑成子（宍倉）